

令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

学校法人 北上学園

1. 設置する学校・学科等

専修大学北上高等学校

普通科・グローカルビジネス科(商業科)・自動車科

専修大学北上福祉教育専門学校

保育科・福祉介護科

認定こども園 専修大学北上幼稚園

1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 理事会・評議員会の構成（令和5年3月31日現在）

・理事定数 13人以上16人以内

現在数 15人 (内、理事長1、常勤理事4)

選任区分 設置する学校・園の長

評議員のうちから評議員会で選任

学識経験者のうち理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

・監事定数 2人

現在数 2人 選任区分 理事会で選任

・評議員定数 28人以上33人以内

現在数 32人 選任区分 設置する学校・園の長

設置する学校の卒業生から理事会で選任

法人の職員のうちから理事会で選任

学識経験者として理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

教職員数

令和4年5月1日現在

| | 教員数 | | | | | 職員数 | | | | | | 合計 | |
|------|------|------|------|----|-----------|------|------|------|------|----|-----------|-----|--|
| | 本務 | | | | 非常勤 講師 | 本務 | | | | | 非常勤 職員 | | |
| | 専任教諭 | 特別講師 | 常勤講師 | 小計 | | 事務長 | 専任職員 | 常勤職員 | 専任技職 | 小計 | | | |
| 高等学校 | 43 | 2 | 4 | 49 | 10 | 1 | 6 | 3 | 3 | 13 | 3 | 75 | |
| 専門学校 | 9 | 1 | 2 | 12 | 26 | ※(1) | 2 | | | 2 | 1 | 41 | |
| こども園 | 20 | | | 20 | 16 | ※(1) | 1 | 1 | | 2 | 3 | 41 | |
| 計 | 72 | 3 | 6 | 81 | 52 | 1 | 9 | 4 | 3 | 17 | 7 | 157 | |

※高等学校事務長は専門学校事務長兼務

※高等学校専任職員1名はこども園事務長兼務

令和4年度 北上学園事業報告の評価

目標値の考え方

各校の事業計画の目標について、年度末の実績値に応じて、「A・B・C」の3段階で示します。

| 達成率 | |
|-----|--|
| A | おおむね目標値どおりの場合 (目標値に対して 110%未満、90%以上の実績値を達成した場合) |
| B | 達成している部分もあるが、不十分である場合 (目標値の 90%未満の実績値の場合) |
| C | 目標値を下回った場合 (全く達成していない) (目標値の 50%未満の実績値の場合) |

令和4年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【専修大学北上高等学校】

入学定員（300名）の充足を図り、保護者・生徒・教職員の満足度を高めるため、社会に開かれた学校づくりを進め、地域社会に貢献する有為な人材を育てる教育を行う。

| | | |
|-----------|------------|-----------------------|
| 令和5年度入学生 | 普通科 | 193／185名入学(充足率104.3%) |
| 302名/300名 | グローカルビジネス科 | 79／80名入学(充足率98.8%) |
| 充足率100.7% | 自動車科 | 30／35名入学(充足率85.7%) |

1 教育内容の充実について

達成度 B

「学びの改革」の実現に向けて、「未来を創る学び」を新カリキュラムで実現させ、一人ひとりが自分らしい進路を実現するという、「未来を創る学び」そのものが本校の新しいブランドとなるべく様々な対策を講じ、準備し実践しているが、道半ばである。生徒・保護者の満足度を上げて、成果を出すには一層の努力と工夫が必要である。

(1) 建学の精神を柱とした道徳教育を充実させ、豊かな人間性を身につける。

建学の精神「報恩奉仕」の説明用紙を各クラスに掲示し、日々のHR活動を各クラス担任・副担任で行うことにより、日々の生活における留意事項の徹底を図った。良い行いも積極的に紹介しながら、豊かな人間性を身に付けさせる指導を実践した。

(2) 家庭や関係機関と連携しながら、規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。

毎朝、担任・副担任複数にてHRを行い、服装を始め様々な指導を実践し、朝学習や連絡・指導の徹底を図った。日頃から生徒や保護者との面談を充実させ、問題が起きた時は、関係機関に相談しながら、様々な課題解決を図った。

(3) 新たな教育課程を軌道に乗せ、スクールミッション・スクールマニフェストに沿った、適切な指導を実践する。

建学の精神、校訓をもとに、身に付けさせたい8つの力を明記し、ループリックに表した。そして、その中から各教科を通じて特に身に付けさせたい力を検討し、シラバスに明記することで、生徒一人ひとりの生きる力を育み、豊かな人間性の育成に努めた。

(4) 既存学科コースと新学科コースの特性を生かした、特色ある教育活動の実践を行う。

新教育課程1期生を迎えて、新たな学びの創出に向けて、シラバスを充実させ観点別評価を実施のもと、指導と評価の一体化に努めた。普通科では、文科省普通科改革支援事業により、探究型の教育活動の充実に努めた。商業・グローカルビジネス科では、専北マルシェなど実践型の授業に取り組んだほか資格取得にも積極的に挑戦した。自動車科では、各種検定に積極的に挑戦したほか、新たな学びへの取り組みを模索した。

(5) 普通科特進コースの充実と新たな進学指導体制の構築により進学実績の向上を目指す。

従来の特進コースでは、一人ひとりの志望を大切に丁寧な指導を行い、4名の国公立大学合格を果たした。新たな枠組みとして、専北塾の充実を図り、生徒の多様なキャリア育成に寄与できるプログラムを提供した。

(6) 多様な能力の開発と個性を伸ばす活躍・経験の場を設定する。

課外活動がより魅力的になるように、部活動サミットを開催し、生徒のより主体的・自主的な活動を促し、各部・各種委員会等において、工夫を凝らして活動し、成果を上げている。

(7) I C T 環境を整備し、それを活用した教育活動を展開する。

DX推進に向けた基盤整備事業（通称：専北DX推進事業）の答申を受け、Wi-Fi環境の整備拡充を行い、タブレット使用により、ロイロノートやClassiを活用した授業を実践した。

(8) 多様な進路目標に対応し、自ら未来を切り開くためのキャリア教育を充実させる。

総合的な探究の時間の全般的取り組み「SENTAN」の充実を図ったほか、すべての教科で探究型の授業を推奨し実践した。「専北塾」においては、生徒の多様な進路希望に対応するため多くの講座を用意して、未来を切り開く進路意識の醸成に努めた。

(9) 教育相談態勢の充実を図り、支援が必要な生徒や学校不適応への適切な対処を行う。

スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSWr)をフル活用したほか、学習支援員の活用により、生徒や保護者の困り感に寄り添うことができた。また、学年会、養護教諭等と連携し、定期的にケース会議を持ち、関係機関との連携も図り課題の解決に努めた。

(10) 学校評価・授業評価の実施結果を活用し、改善とより一層の充実を図る。

学校評価については、今年度は Classi のみで全保護者に対しアンケートを実施した。回答数は少なくなったが、集計後保護者に公表した。（別紙参照）

授業評価は、全校生徒に Classi を使用し、全教科の授業評価のアンケートを実施し集約後、職員が授業改善に活用したほか、校長が教員の指導にも利用した。

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

月一回定期的に研修会を開催するなど、回数や自主的勉強会は増えたが、職員の資質・能力の向上には終わりではなく、より効果的に系統立てた研修態勢の構築に努めるとともに、職歴に応じた研修を配置するなど、より一層研修の充実に努めていきたい。

(1) 授業を第一に、指導と評価の一体化を図るため、日々授業改善に努める。

授業に係る研修を多く実施して、日々授業改善に取り組む機運を醸成した。初任者を中心に行なった授業公開を行い。職員同士の互見授業を実践した。石川一郎理事には、授業見学及び授業指導並びに各教科カリキュラム改善指導を行っていただいた。

(2) 生徒の観察に努め、きめ細やかな指導と速やかな対応をとる。

日常的教員によるアセスメントのもと、学年会での情報共有、ケース会議を経て、SCやSSWrとの連携や学習支援員を授業に於いて活用して、きめ細やかに対応した。

(3) 定例の諸会議を有効にし、教員間の連携強化に努める。

Classi を活用し、会議資料の事前配布を行い、タブレット等により、ペーパーレス化するなど効率化に努めた。諸会議が実効性あるように職員間における情報共有を行い連携に努めた。

(4) 人事評価制度を活用し、職歴に応じて自己啓発に努める環境を整える。

自己申告シートを年4回提出し、その都度面接を行い、職員との相互理解を深めた。職員はシートの提出により、考える機会を得て、自己啓発に努めるいい機会となっている。

(5) 校内・校外での必要な研修への参加を促し、成果を伝達して共有する。

希望のある校外研修には積極的に参加を促し、研修後は関係職員に対し、研修内容を共有したほか、他校視察については、職員会議で報告を行い情報について共有した。

(6) コンプライアンス（法令遵守）を推進するとともに、働き方改革にも取り組む。

毎月の職員会議等で校長からの講話を実施し、ライフステージを尊重した働き方を推進するとともに、日々の朝会等でも事あるごとに具体例を話して法令遵守に努めた。

3 連携強化について（系列校、地域社会、関係機関）

達成度 B

コロナ禍にありながらも、出来るだけ実施できるように工夫を凝らし、従前以上に連携強化に努めることができた。今後もより一層の連携を様々なかたちで実施して、魅力を高めていきたい。

(1) 系列校との交流により、上級学校への進学の動機付けと意欲を育てる。

◇専修大学高大連携

①専修大学・系列学校合同説明会（6月）

②専修大学フェスティバル参加（10月）

③ニュース専修配布

◇専修大学・系列学校合同説明会

①専修系列説明会（オンラインで実施）（6月）

②専修大学先輩と語る会（リモートで実施）（8月）

③専修大学フェスティバル（オンラインで実施）（10月）

- ◇北上福祉教育専門学校との連携事業 ①学校説明会（生徒向け）（6月実施）
②学校説明会（保護者向け）（12月実施）
③1年生全員説明会（1月）
④1・2年生KTS希望者説明会（3月実施）

（2）高大・高専・高幼連携事業を通して、系列校への進学意欲を高め、豊かな心の育成を行う。

- ◇石巻専修大学高大連携接続科目授業58名受講 受講回数15回／単位認定授与式（2月）
他の連携 ①石巻専修大学 グローカルビジネス科・商業科全員対象216名（7/13実施）
「簿記」講話 平澤 哲 氏
②石巻専修大学で講義受講とゼミナール参加 普通科含む57名参加
(商業科2年生=簿記グレード上位者16名)
③連携出前授業 自動車科1年生石巻専修大学 川島純一郎教授
「自動車の未来・エンジンの将来」（2月）
④連携出前授業 グローカルビジネス科1年生 石巻専修大学 田村真介准教授
「出づるを制して入るを量る」（簿記）（2月）
⑤連携出前授業（春の集中講座）（3/13～17）
石巻専修大学 平澤 哲 氏
⑥北上幼稚園食育交流（8回実施=6月に4回／11月に4回）
⑦北上幼稚園児との英会話教室（9/22～14回実施）
⑧北上幼稚園とのサッカー教室（4実施）

（3）北上市との提携による、地域社会・関係機関との連携を通して、人材育成に努める。

提携を通じた北上市との強い結びつきのもと、市事業ワークショップへの参画や市主催事業への司会派遣、美術部による特殊詐欺被害防止チラシデザイン作成を行うなど、連携を取って種々活動した。

（4）SVきたかみとの連携により部活動改革・働き方改革に繋がる取り組みにする。

SVきたかみと学内部活動との連携の中で、地域に貢献する新しい形にチャレンジしてきた。教員の働き方改革にも繋がる取り組みとして今後も発展させていきたい。

4 広報活動の強化について

達成度 B

ホームページ等で積極的情報発信に努めたが、適切な時期に適切な情報の発信等まだ工夫の余地はある。入試をはじめ各種申し込みもWEBから行い、だいぶ定着してきたが、さらに方法が定着できるように努めていきたい。

（1）中学生・中学生の保護者・中学校及び学習塾等への様々な広報活動を展開する。

- ①感染症予防の為4月の中学校三地区訪問持参せず郵送に切り替えた（44校）
- ②進路相談会（3回実施=57名／プレゼン対策9名）
- ③中学校高校説明会へ参加27校（前年より4校減）、入試事務説明会（11月実施）4校
- ④和賀地区中学校進路指導研究会（中学校教諭対象）講師として派遣
- ⑤夏の特別企画『親子で考える高校入試』（8月実施：学習塾主催）へ参加
- ⑥学校案内パンフレット（カラー30ページ=7000部作製）
- ⑦生徒募集要項4000部作製

（2）ホームページの充実に努め、教育内容を広く世間に知らせる。

ホームページの効果的運用を模索したが、専門的知識技術について業者を頼らなければならずスピード感が大きな課題である。様々なSNSの活用も含めて、情報発信部分はまだまだ課題が残っている。今後もより多くの人に見ていただけるように工夫して情報発信していきたい。

（3）ボランティア活動等に積極的に取り組み、地域への貢献と広報の役割を果たす。

コロナ禍で活動が制限される中ではあったが、地域の要請や、部活動単位で様々なボランティ

ィア活動に取り組んだ。地域貢献と広報の役割を果たすべく一層の充実に努めたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B 大きな事故やいじめの重大事態に繋がる事案はないが、校舎の建設工事も始まる中、安全・安心な体制作りについては、まだやれることはあると考える。いじめについては、速やかで組織的な対応を心がけたが、今以上に早期発見・早期解決を図ることができるように心がける。

(1) 校舎建て替え工事期間の安全管理の徹底と日常の安全教育の充実を図る。

校舎建て替え期間中における、生徒の安全な動線確保に努めるとともに、日頃より安全計画・危機管理マニュアル・防災マニュアルを徹底しながら、避難訓練を実施することで、安全教育を充実させた。

(2) 自他の命を大切にし、生徒一人ひとりが相互に尊重しあう姿勢の醸成を図る。

スクールカウンセラーのお力をお借りし、グループエンカウンターについては、年2回と回数を増やして実施し、相互理解に努めるとともに、全校ガイダンスや日々のホームルームを通じた指導により、互いを尊重する人間関係作りに努めた。

(3) いじめや体罰・暴言の未然防止と実態調査に基づく対応に努める。

年4回のいじめ・生活アンケートを実施し、いじめの早期発見、早期解決に努めた。いじめ事案に対しては、速やかに対策委員会を開催し、組織的に対応した。

6 校舎建て替え事業に際し、安全はもとより、様々な状況に対し、一丸となって協力する体制を構築するとともに、諸々の対策に、全校を挙げて取り組む。

達成度 A 当然であるが、工事中の安全確保に向けて、施行業者と定期的に打ち合わせを行い、協力を得ながら、事故なく工事が行われている。避難訓練も消防署の指導を受けながら実施し、不測の事態に備えた。

7 スポーツ・文化・学術の主な活動

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| (1) 硬式野球部 | 第75回秋季東北地区高校野球県大会第3位（4年ぶり11度目東北大会出場） |
| (2) 軟式野球部 | 県高校総体県大会 優勝（7大会連続18度目） |
| | 東北地区高校軟式野球東北東大会 優勝（12年ぶり3度目） |
| | （5年ぶり5度目全国大会出場） |
| | 全国高等学校野球選手権岩手県大会 優勝（2年連続22度目） |
| | 県高校新人大会 準優勝 |
| (3) 卓球部 | 県高校総体県大会（男子団体） 優勝（10大会連続27度目） |
| | ※IH出場=照井・佐藤組ベスト16 |
| | 県高校新人大会（男子団体） 優勝（19年連続36度目） |
| | 東北選抜大会5位 ※全国選抜大会出場高校 |
| (4) 陸上部 | 高総体 女子4×100mR 6位 東北大会出場 |
| | 県新人 男子800m 優勝 |
| | 県新人 男子1500m 優勝 |
| | 県新人 女子100m 3位 |
| (5) 体操部 | 県高校総体県大会（男子団体） 準優勝 ※IH出場=個人 千葉 心 |
| (6) サッカー部 | 県高校総体（男子） 準優勝 |
| | 県新人大会（男子） 優勝（3年ぶり2度目） |
| | 県高校総体（女子） 優勝（9大会連続9度目） |
| | 県女子サッカー選手権大会（女子） 優勝（6年連続8度目） |
| | 高校女子選手権大会県大会（女子） 優勝（10年連続10度目） |

| | | |
|-------------|---|---------------|
| | 県新入大会（女子） | 優勝（5年連続8度目） |
| (7) バレーボール部 | 県高校総体（男子） | ベスト8 |
| | 東北私学大会 | 準優勝 |
| (8) 吹奏楽部 | 全日本吹奏楽コンクール岩手県大会 | 金賞 |
| | 東北吹奏楽コンクール | 銀賞 |
| | 全日本マーチングコンテスト東北大会 | 金賞 |
| | 全国マーチングバンド・バトルワーリング東北大会 | 金賞 ※2年連続15度目 |
| (9) 美術部 | 北上市明るい選挙啓発ポスターコンクール 「最優秀賞」「優秀賞」「優良賞」「佳作」7名受賞 | |
| (10) 生徒会 | 生徒会誌コンクール | 最優秀賞（2年連続2度目） |
| (11) その他 | 吉川咲来（普通科A Lコース） 暗算10段合格 | |

令和4年度 学校評価アンケート集計結果（高等学校）

（1）実施時期

- 1月10日(木) 保護者向け依頼文書を配布、一斉メール・Classi（クラッシー）で保護者へ依頼
 1月11日(金)
 ~1月25日(金) 保護者がClassiで回答
 1月19日(月) PTA会報「緑の風」で集計結果公表

（2）集計結果

各質問の回答を、以下の数に変換して平均しています。

そう思う→5 やや思う→4 どちらともいえない→3 あまり思わない→2 思わない→1

| 内容 | 質問項目 | R3保護者 | R4保護者 | R3教職員 | R4教職員 |
|-----------|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 教育活動全般 | 生徒・保護者に「建学の精神」がよく理解されている。 | 4.08 | 3.85 | 3.22 | 2.84 |
| | 本校は、生徒会活動や学校行事が充実している。 | 4.47 | 4.37 | 3.93 | 3.73 |
| | 本校は、生徒の安全・健康に配慮している。 | 4.36 | 4.08 | 3.69 | 3.57 |
| | 教職員は、公平・公正に生徒と接している。 | 4.23 | 4.05 | 3.63 | 3.35 |
| | いじめ問題への対応は適切になされていると思う。 | 3.87 | 3.82 | 3.71 | 3.78 |
| | 専大北上高校の教育活動に満足している。 | 4.35 | 4.22 | 3.63 | 3.19 |
| 進路指導・学習指導 | 教育課程や科のコースは、生徒の進路や適性を考えたものとなっている。 | 4.47 | 4.30 | 3.69 | 3.62 |
| | 進路指導において、資料や情報が行き届いている。 | 4.18 | 4.10 | 3.66 | 3.57 |
| | 生徒は、学習方法や学習内容が身についてきている。 | 3.97 | 3.76 | 2.76 | 2.68 |
| | 生徒は、家庭で学習や課題に取り組んでいる。 | 3.60 | 3.54 | 2.31 | 1.89 |
| 環境教育 | 校舎・施設等は整備され、教育環境が整っている。 | 3.43 | 3.56 | 2.58 | 2.03 |
| | 校舎内外の清掃・美化は、行き届いている。 | 3.85 | 3.77 | 2.66 | 2.32 |
| 活動広報 | ホームページやメール、文書等での情報提供は充実している。 | 4.61 | 4.55 | 4.15 | 3.92 |
| | 地域や中学生に対して、積極的に広報活動が行われている。 | 4.16 | 3.87 | 4.19 | 3.86 |
| PTA外活動 | 本校の部活動、課外活動は、活発に行われている。 | 4.63 | 4.41 | 4.05 | 4.08 |
| | 子どもの所属している部の活動は充実している。 | 4.40 | 4.23 | 4.14 | 3.89 |
| | PTA活動は、活発で円滑に行われている。 | 4.07 | 4.03 | 3.80 | 3.62 |
| | PTA行事は、参加しやすい日時、内容になっている。 | 3.86 | 3.90 | 3.66 | 3.65 |
| 回答数 | | 460 | 357 | | |
| 回答率 | | 63.4% | 47.5% | | |

（3）回答内容について

今年度から、紙を使わず、Classiを活用し完全にweb上のアンケート解答としたため、回答数が少なく回答率は大きく下がりました。もっと回答していただけるように、工夫して参ります。回答結果内容については、評価得点平均も若干下がっており、清掃等環境整備に関する項目と情報発信等広報活動に関する項目が課題と受け止めております。自由記述においては、数多くの感謝や激励のお言葉をいただき、それを励みに一層努力精進して参ります。その一方で、改善を求める厳しいご意見もあり、その声にも誠実に耳を傾け対処し、これからも生徒一人ひとりを大切にし、日々の教育活動をより一層充実させるべく努力して参ります。（校長）

専修大学北上高等学校

1. 学科名

普通科・グローカルビジネス科(商業科)・自動車科

2. 学年・学科別在校生徒数

令和4年5月1日現在

| | 学 科 | 入学定員 | 男 子 | 女 子 | 計 |
|--------|------------|------|-----|-----|-----|
| 1 年 | 普 通 科 | 185 | 88 | 96 | 184 |
| | グローカルビジネス科 | 80 | 24 | 32 | 56 |
| | 自動 車 科 | 35 | 18 | 0 | 18 |
| | 小 計 | 300 | 130 | 128 | 258 |
| 2 年 | 普 通 科 | 185 | 88 | 76 | 164 |
| | 商 業 科 | 80 | 38 | 37 | 75 |
| | 自動 車 科 | 35 | 20 | 1 | 21 |
| | 小 計 | 300 | 146 | 114 | 260 |
| 3 年 | 普 通 科 | 185 | 68 | 67 | 135 |
| | 商 業 科 | 80 | 39 | 46 | 85 |
| | 自動 車 科 | 35 | 24 | 0 | 24 |
| | 小 計 | 300 | 131 | 113 | 244 |
| | 合 計 | 900 | 407 | 355 | 762 |

3. 進学・就職の状況（令和5年3月31日現在の進路状況）

(1)進学状況 164 (男子78・女子86)

()は女子内数

| 区分 | 学科 | 普通科 | 商業科 | 自動車科 | 計 |
|------|----|----------|---------|-------|----------|
| 大学 | | 73 (28) | 11 (8) | 1 (0) | 85 (36) |
| 短期大学 | | 6 (5) | 2 (1) | 1 (0) | 9 (6) |
| 専修学校 | | 38 (27) | 24 (17) | 6 (0) | 68 (44) |
| 未定 | | 2 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 2 (0) |
| 合計 | | 119 (60) | 37 (26) | 8 (0) | 164 (86) |

(2)産業別就職状況 77 (男子45・女子32)

()は女子内数

| 区分 | 学科 | 普通科 | 商業科 | 自動車科 | 計 |
|----------------|----|--------|---------|--------|---------|
| 農林漁業 | 県内 | | | | |
| | 県外 | | | | |
| 建設業 | 県内 | | | | |
| | 県外 | | | | |
| 製造業 | 県内 | 10 (4) | 29 (13) | 6 (0) | 45 (17) |
| | 県外 | | | 1 (0) | 1 (0) |
| 情報通信業 | 県内 | | | | |
| | 県外 | | 1 (0) | | 1 |
| 運輸郵便業 | 県内 | | | 2 (0) | 2 (0) |
| | 県外 | 1 (1) | | | 1 (1) |
| 卸売・小売業 | 県内 | | | 6 (0) | 6 (0) |
| | 県外 | | 2 (1) | | 2 (1) |
| 金融保険 不動産業 | 県内 | 1 (0) | 2 (1) | | 3 (1) |
| | 県外 | | | | |
| 宿泊・飲食業 | 県内 | | 3 (3) | | 3 (3) |
| | 県外 | | | | |
| 生活関連、 娯楽業 | 県内 | | | | |
| | 県外 | | 1 (1) | | 1 (1) |
| 専門・技術 サービス業 | 県内 | | | | |
| | 県外 | | | | |
| 医療福祉 | 県内 | | 4 (4) | | 4 (4) |
| | 県外 | | | | |
| 複合サービス業 | 県内 | | 1 (1) | | 1 (1) |
| | 県外 | | | | |
| サービス業 | 県内 | 2 (1) | 1 (1) | | 3 (2) |
| | 県外 | | | | |
| 公務 | 県内 | | | | |
| | 県外 | 2 (1) | 1 (0) | 1 (0) | 4 (0) |
| 合計 | 県内 | 13 (5) | 40 (23) | 14 (0) | 67 (28) |
| | 県外 | 3 (2) | 5 (2) | 2 (0) | 10 (4) |
| | 合計 | 16 (7) | 45 (25) | 16 (0) | 77 (32) |

(3) 地域別就職者の内訳

()は女子数

| 学科 地域別 | 普通科 | 商業科 | 自動車科 | 計 |
|-----------|--------|---------|--------|---------|
| 岩手県 | 13 (5) | 40 (23) | 14 (0) | 67 (28) |
| 青森県 | | 1 (1) | | 1 (1) |
| 宮城県 | 1 (1) | 2 (0) | 1 (0) | 4 (1) |
| 栃木県 | 2 (1) | | | 2 (1) |
| 埼玉県 | | 1 (1) | | 1 (1) |
| 東京都 | | 1 (0) | | 1 (0) |
| 愛知県 | | | 1 (0) | 1 (0) |
| 合 計 | 16 (7) | 45 (25) | 16 (0) | 77 (32) |

4. 入学試験状況

(令和5年3月31日現在)

| 学 科 | 志願者数 | | | 入学手続者数 | | |
|------------|------|-----|-----|--------|-----|-----|
| | 男 子 | 女 子 | 計 | 男 子 | 女 子 | 計 |
| 普通科 | 376 | 353 | 729 | 107 | 86 | 193 |
| グローバルビジネス科 | 81 | 63 | 144 | 34 | 45 | 79 |
| 自動車科 | 54 | 1 | 55 | 30 | 0 | 30 |
| 合 計 | 511 | 417 | 928 | 171 | 131 | 302 |

令和4年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【北上福祉教育専門学校】

入学定員(90名)の充足を図り、社会の発展に貢献する実践的な専門職業人を育てる。

| | |
|-------|-------------------------|
| 保 育 科 | 63名入学 (定員50名に対し 126.0%) |
| 福祉介護科 | 35名入学 (定員40名に対し 87.5%) |
| 合 計 | 98名入学 (定員90名に対し 108.9%) |

1. 教育内容の充実について

達成度 A

コロナ禍ではあったが、ICTを活用する等、工夫しながら授業、実習等の教育活動を行うことが出来た。会議・委員会等は対面開催も増え、状況によりオンラインも交えながら行い、教育の質的向上に繋げることが出来た。また、介護福祉士国家試験合格率は100%には達しなかったものの全国平均を上回り、就職率も早い段階で100%を達成出来た。

(1) ICTを活用した効果的な授業運営に努める。

コロナ禍での遠隔授業の他、平常授業でもICT活用の拡大がみられている。

(2) 学生による授業評価を実施し、授業の質的向上に努める。

前期、後期の年2回、科目ごとに、学生アンケートによる授業評価を実施後、評価結果を集計し授業内容の質的向上に努めた。

(3) 実習指導者会議を行い、実習指導者と連携した実習プログラムの開発を行う。

両科共に一堂に会しての開催は無かったが、資料送付等により書面および電話にて実習プログラムを確認し、実習指導について共通理解を深めた。

(4) 2年間の実習実践内容を総括し「実習実践研究収録」を作成する。

保育科「実習報告集」、福祉介護科「介護事例研究発表会報告集」を作成した。

(5) 介護福祉士国家試験合格率100%に向け、対策講座を推進する。

国家試験対策講座は時間割に位置づけ、模擬試験を増やすなど強化した。

本校合格率は89.7%（全国平均84.3%、養成校平均75.6%）

受験者29名（日本人24名、留学生5名）、合格者26名（日本人23名、留学生3名）、日本人学生合格率95.8%、留学生合格率60.0%であった。

(6) 学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を開催し、教育の質的向上に努める。

- ・学校関係者評価委員会を2回開催し、専任講師・職員への自己評価と、非常勤講師、保護者、学生、同窓生、実習施設へのアンケート調査による学校評価の内容を検討し、実施後はアンケート結果の振り返りを行った。
- ・教育課程編成委員会を毎年2回開催し、現在のカリキュラムの確認と今年度の振り返り、今後の方向性について検討した。

(7) 学生に合わせた丁寧な就職指導により就職率100%を維持する。

- ・保育科は、就職希望者全員が就職、1名が石巻専修大学に編入学した。（100%）
- ・福祉介護科は、就職希望者全員が就職した。（100%）

2. 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

人事評価制度を試行的に導入して2年目、教員個々の自己啓発に繋がることが出来た。また、研究会・研修会・学会等は、オンライン等でも手軽に参加出来た。

しかし、総合的に見てコロナ対応に追われて余裕が無く共通理解にまでは及ばず、教員の資質・能力の向上に繋がるまでに至ったとはいえない。

- (1) 学内での教員研修会を開催し、教科指導、学生指導、専門士養成の研修を行う。

一堂を会しての開催は2年ぶりとなった。資料を基に全体研修、科別研修を行った。

- (2) 広く社会に貢献できる人材育成のため、研究会・研修会・学会等へ計画的に参加する。

| | | |
|-------|------------------------------|-------|
| 保育科 | 日本保育学会 第75回大会（オンライン） | 1名参加 |
| | 全国保育士養成協議会セミナー、研究大会（オンライン） | 2名参加 |
| | 全国保育士養成協議会東北ブロックセミナー（盛岡市） | 6名参加 |
| | 全国保育士養成協議会東北ブロック研究会（オンライン他） | 16回参加 |
| 福祉介護科 | 日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会（オンライン） | 4名参加 |
| | 介養協東北ブロック会教員研修会（オンライン） | 5名参加 |
| | 介養協外国人留学生受け入れ研修会（オンライン） | 1名参加 |
| その他 | 全国専修学校各種学校総連合会東北ブロック研修会（仙台市） | 1名参加 |
| | 岩手県専修学校各種学校連合会研修会（盛岡市） | 2名参加 |

- (3) 授業力の向上に向け、公開授業を実施する。

公開授業週間を前期後期各一回ずつ設定し、専任講師（一部非常勤講師）の授業を公開した。授業内容・教育方法の感想や気付いた点について担当教員に伝えることで、授業実践の向上に繋がった。

- (4) 実践及び研究の発表の場として、研究紀要の隔年発行を基本に取り組む。

令和5年3月に研究紀要第7号を発行し、国立国会図書館、全国幼稚園教員養成機関連合会や関係大学に配布予定である。

3. 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 A

コロナ禍ではあったが、新規事業を行うなど、工夫して連携をとることが出来た。

北上高校からの入学者は11名、園児と学生は、実習以外の行事で楽しく行き来し交流することが出来た。また、地域のイベント等が中止となる中、ふれあいデイサービスの交流、夢のキラキラ音楽会・介護事例研究発表会を成功に収めることが出来た。

- (1) 北上高校との高専連絡会議を設け、本校への進学20名を目指す。

高専連絡会議開催は1回にのみとなった。新任教員研修、保育・福祉系進学ガイダンス、1年生全員対象ガイダンス、保護者向けガイダンスを実施した。

介護労働安定センター岩手支部、岩手日報主催の介護福祉士主演映画「ケアニン」上映会を紹介し、北上高校1年生全員に見て頂き、介護福祉士の仕事理解に繋がった。

本校へは11名（保育8、福祉3）が入学、うち奨学生（推薦合格）は6名であった。

- (2) 幼稚園移設により、学生が日常的に見学・参加実習する等、多くの交流を目指す。

コロナ禍ではあったが実習の他、園見学1回、ハロウィンイベントで交流した。

- (3) 石巻専修大学の出張講義（講師派遣）、編入学受入等による連携を図る。

理工学部教授依田清胤先生に集中講義で「自然科学概論」を担当頂いた。編入学では、

保育科1名を受け入れて頂いた。また、5年度より指導大学を依頼し、人間学部教授高橋寛人先生、新福悦郎先生に「教育制度論」を担当して頂く予定である。

(4) SDGs実現に向け、北上市と連携を強化して保育・介護の啓蒙及び人材育成を行う。(地域のイベント・ボランティアへの積極的参加、出前、公開講座の開催等)

① 地域のイベント (北上みちのく芸能まつり等)

短縮開催ではあったが、北上みちのく芸能まつり市民パレードに全員が参加した。

② 各種ボランティア活動 (県障害者スポーツ大会・市図書ボランティア等)

令和4年度は依頼が無かった。

③ 北上市出前講座の登録と実施 (中高生・一般向け)

「北上市生涯学習まちづくり出前講座」に2講座登録し、和賀西中学校より「保育って何だろう」(対象31名)の依頼があった。

④ 公開講座の開催 中止

⑤ 学園祭の開催

学園祭は時間短縮して行い、家族のみに公開して行った。

⑥ 黒沢尻8区ふれあいデイサービス「ひまわり会」とニュースポーツでの交流を行った。

⑦ 短歌の取り組み

福祉介護科58名が参加した第33回北上市民芸術祭「北上市民短歌の集い」学生の部では10首入選した。

(5) 実習施設等と連携し、行事への積極的参加や協力を行う。

実習施設の行事 (幼稚園・保育園・障害者施設・介護老人福祉施設等)への参加は新型コロナウイルス感染症拡大のため、要請が無かった。

(6) 実習先の園児や先生方、保護者を招待して保育科「夢のキラキラ音楽会」を開催。

11月11日、さくらホールで開催され、北上幼稚園3~5歳児他3園272名、保護者66名、合計338名に見て頂いた。コロナ対策のため観客数を減らしての開催となつたが、近隣園にはDVDを配布した。

(7) 実習先の先生方、保護者、卒業生を招待して福祉介護科「介護事例研究発表会」を開催。

12月15日、さくらホールで開催され、福祉介護科学生、保護者、実習指導者、卒業生、教員を含め合計72名が参加した。教育課程編成委員の先生に講評を頂き、内容の濃い発表会となった。

4. 広報活動の強化について

達成度 A

コロナ禍ではあったが、教職員全員が一丸となり、学生募集活動一つ一つの意味を確認し、協力して広報活動を行うことが出来た。又、ホームページもリニューアル出来た。

保育科は定員を上回り11月の入試で終了した。福祉介護科は、委託訓練生の数も伸びず、定員に達することが出来なかつたが、両科全体では定員を上回つた。

(1) WEB広報 (HP、ツイッター等) を強化し、戦略の転換を図る。

ツイッターの更新は1日おきに行つた。ホームページは5年度よりリニューアルした。

(2) 報道機関へ情報提供し、メディアの積極的活用を図る。

入学式、卒業式、オープンキャンパス、夢のキラキラ音楽会、介護事例研究発表会等、全ての学校行事の取材案内を市内11ヶ所の報道機関に送付した。

(3) 業者主催進学説明会、相談会へ積極的に参加する。

業者主催の進学説明会に74回参加した。(昨年度35回)

その他、学校主催の進路ガイダンスに1件参加した。(住田高校)

(4) 同窓会、後援会と連携し、広報活動の展開を図る。

同窓会総会は中止となり協力依頼が難しかったが、実習先やHP等で呼びかけ、新制度「同窓生推薦受験生の受験料免除制度」に同窓生より30名の推薦があった。(昨年度は25名)また、後援会役員会・総会・研修会を開催し、本校PRの協力依頼を行った。

(5) 学生募集要項及び学校案内等の充実、作成を計画的に行い、早期完成を目指す。

学校案内は、保護者や高校生が読みやすいデザインに変更し4月下旬に完成した。

(6) 高校教員向けに学校説明会を開催し、高校教員への周知を図る。

6月20日に開催。5校5名が参加し、説明後在校生と懇談した。

(7) 全教員による県内外の高校への訪問(年3回)、出前講座を実施する。

- ・ 岩手県、秋田県、宮城県の高校を1~3回(延べ163校)教員全員で訪問した。
- ・ 出前講座は、花北青雲高校、平館高校、宮古高校定時制、釜石高校定時制で実施した。

(8) オープンキャンパス参加への積極的PR、学校見学の随時開催を行う。

- ①オープンキャンパスは回数を増やし14回開催、総参加者157名(昨年174名)
- ②学校見学 岩谷堂高校 21名 杜陵高校奥州校定時制 24名
花北青雲高校 41名 遠野緑峰高校 20名

(9) ハローワークと連携し、社会人への募集活動の推進を図る。

- ・ 委託訓練事業(介護福祉士養成コース)へ応募し、ハローワークと共同で説明会を1回実施した。
- ・ ハローワーク(奥州市、北上市、花巻市、一関市、盛岡市)に対し、電話で学校説明し募集活動を行った。

(10) 外国人留学生の募集活動を推進し、受け入れ体制の整備を図る。

- ・ 留学フェア(仙台市 年2回) 中止
- ・ 仙台の日本語学校を対象にオンライン説明会を1回実施した。
- ・ 留学生1名がオープンキャンパスに参加した。

(11) 学生募集強化委員会を月1回開催し、スピード感をもって学生募集活動を行う。

毎月1回以上、学生募集強化委員会(校長、科長、入試広報部長)を開催し、広報活動の企画・運営・評価を実施し、学生募集の強化を図った。

5. 安心・安全な環境整備について

(1) 校舎の老朽化に伴う環境整備を計画的に実施する。

(学生玄関、購買コーナー、机椅子等整備、壁塗装等の修繕、第1体育館解体計画準備等)

達成度 A

学生玄関のシューズロッカー・コモンルーム(購買休憩コーナー)・合同講義室机椅子の整備、2号館階段の壁塗装等、校舎の老朽化に伴う環境整備を進めることができたこと、第1体育館の解体は、令和5年度7月以降に行う計画で進められていることによる。

6. その他

(1) 令和6年度に迎える60周年の準備委員会を発足する。

達成度 A

令和4年度は60周年準備委員会を発足し、①式典・アトラクション担当、②記念誌・映像担当に分かれて話し合われたことを、毎月の定例職員会議で報告されていることによる。

令和4年度 学校評価(学校関係者)アンケート結果

評価(適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| 評価項目 | 評価平均 | | | | | | 昨年度全体 170名 | |
|--------------|------------------------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|------------|---------------|-----|
| | 学生(2年) 53名 | 学生保護者 44名 | 実習施設 27名 | 同窓会役員 4名 | 非常勤講師 8名 | 全体 136名 | | |
| 1 教育理念・目標 | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | 3.7 | 3.5 | 3.8 | 3.8 | 4.0 | 3.7 | 3.6 |
| 2 学校運営 | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 3.6 | 3.4 | 3.8 | 3.5 | 4.0 | 3.6 | 3.6 |
| 3 教育活動 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3.6 | 3.6 | 3.8 | 3.5 | 4.0 | 3.6 | 3.6 |
| 4 教育活動 | 関係施設等と連携による実践的な職業教育(実習等)が行われているか | 3.8 | 3.5 | 3.7 | 3.5 | 3.7 | 3.6 | 3.7 |
| 5 学修成果 | 就職率の向上が図られているか | 3.6 | 3.5 | 3.7 | 3.5 | 3.7 | 3.6 | 3.6 |
| 6 学生支援 | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3.6 | 3.5 | 3.6 | 3.5 | 3.9 | 3.6 | 3.6 |
| 7 学生支援 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 3.5 | 3.4 | 3.7 | 3.5 | 3.9 | 3.5 | 3.6 |
| 8 学生支援 | 保護者と適切に連携しているか | 3.5 | 3.2 | 3.5 | 3.5 | 4.0 | 3.4 | 3.3 |
| 9 学生支援 | 卒業生への支援体制はあるか | 3.5 | 3.3 | 3.5 | 3.5 | 4.0 | 3.4 | 3.4 |
| 10 教育環境 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3.6 | 3.4 | 3.7 | 3.8 | 3.3 | 3.5 | 3.5 |
| 11 学生の受け入れ募集 | 学納金は妥当なものとなっているか | 3.5 | 3.4 | 3.8 | 3.8 | 4.0 | 3.5 | 3.5 |
| 12 法令等の遵守 | 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか | 3.7 | 3.5 | 3.7 | 3.3 | 4.0 | 3.6 | 3.6 |
| 13 社会貢献・地域貢献 | 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3.6 | 3.4 | 3.6 | 3.5 | 4.0 | 3.5 | 3.5 |
| 14 社会貢献・地域貢献 | 学生のボランティア活動を奨励しているか | 3.4 | 3.3 | 3.6 | 3.5 | 4.0 | 3.4 | 3.3 |
| 15 社会貢献・地域貢献 | 公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか | 3.6 | 3.3 | 3.5 | 3.5 | 3.7 | 3.5 | 3.5 |

1 調査時期

令和4年12月16日(金)～令和5年1月13日(金)

2 調査対象

学生の保護者(職業訓練生、留学生を除く)、実習施設等(幼稚園、保育所、高齢者施設等)、同窓会役員、非常勤講師

3 依頼方法

アンケート調査用紙を手渡しもしくは郵送により依頼し、回収した。保護者については、学生を通して担任が依頼、回収した。

4 回収率

| | |
|------------|------------------------|
| 全体 | 74.7% (依頼数182 回収数 136) |
| 学生(2年) | 80.3% (依頼数 66 回収数 53) |
| 学生(2年)の保護者 | 83.0% (依頼数 53 回収数 44) |
| 実習施設等 | 90.0% (依頼数 30 回収数 27) |
| 同窓会役員 | 30.8% (依頼数 13 回収数 4) |
| 非常勤講師 | 40.0% (依頼数 20 回収数 8) |

5 有効回答数

136

専修大学北上福祉教育専門学校

1. 学科名

保育科・福祉介護科

2. 学年・学科別在学生数

(令和4年5月1日現在)

| | 学 科 | 入学定員 | 男 子 | 女 子 | 計 |
|----|-----------|------|-----|-----|-----|
| 1年 | 保 育 科 | 50 | 6 | 38 | 44 |
| | 福 祉 介 護 科 | 40 | 13 | 16 | 29 |
| | 小 計 | 100 | 19 | 54 | 73 |
| 2年 | 保 育 科 | 50 | 10 | 40 | 50 |
| | 福 祉 介 護 科 | 40 | 5 | 23 | 28 |
| | 小 計 | 100 | 15 | 63 | 78 |
| | 合 計 | 180 | 34 | 117 | 151 |

3. 就職等の状況

(1) 就職者数

(令和5年3月31日現在)

| | 保育科 | 福祉介護科 | 計 |
|-----------|-----|-------|----|
| 就 職 決 定 者 | 37 | 29 | 66 |
| 就 職 未 定 者 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 37 | 29 | 66 |

(2) 就職先の内訳

(令和5年3月31日現在)

| | 保育科 | 福祉介護科 | 計 |
|-----------|-----|-------|----|
| 幼 稚 園 | 2 | | 2 |
| 保 育 園 | 15 | | 15 |
| 認定こども園 | 14 | | 14 |
| 特別養護老人ホーム | | 20 | 20 |
| 介護老人保健施設 | | 3 | 3 |
| 福 祉 施 設 他 | 6 | 6 | 12 |
| 合 計 | 37 | 29 | 66 |

4. 入学試験状況

(令和5年3月31日現在)

| 学 科 | 志 願 者 数 | | | 入学手続者数 | | |
|-------|---------|-----|----|--------|-----|----|
| | 男 子 | 女 子 | 計 | 男 子 | 女 子 | 計 |
| 保 育 科 | 5 | 58 | 63 | 5 | 58 | 63 |
| 福祉介護科 | 12 | 23 | 35 | 12 | 23 | 35 |
| 合 計 | 17 | 81 | 98 | 17 | 81 | 98 |

令和4年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【認定こども園専修大学北上幼稚園】

教育目標（げんきな、おもいやりのある、楽しいようちえん）を具現化し達成していく。

1 教育内容の充実について

達成度 A

アクティブラーニングを取り入れて3年目になるが、子どもたち自身の遊びに変化がみられるようになってきた。環境構成を整えたり、お部屋にいろいろな空間を作ったりして子どもたちが興味・関心を持ち、いろいろな遊びを楽しむようになってきている。不思議に思ったことを解決しようとする姿が身についている。

支援が必要としている子どもたちについては、支援担当を適切に配置することで、支援を要する子の成長に繋がることを改めて感じた。北上市療育センターと連携を図り進めていくたい。

（1）教育課程にアクティブラーニングを取り入れて、保育の改善を行う。

- 日々の生活の中で、担任の思いや願いを保育活動の中に取り入れていくことで、子どもたち自身が興味関心の中から学び、不思議に思ったことを解決しようとする姿が身についている。
- 学年会議で教育課程をもとに、各々のクラス担任が自分のクラスに合ったねらいを考えた。各学年でのねらいの中で、担任がアクティブラーニングを考え、子どもたちの保育に生かした。保育者自身が課題を見つけ、解決しながら保育をすることで保育の改善にもつながった。

（2）支援を要する園児への保育の充実を図る。

- フローチャートをもとに、学年で気になる子の様子を共有し特別支援コーディネーターに相談しながら進めることができた。
- 運営委員会で各クラスの様子を把握し保育者の配置を考えてきたが、園長主任会の中で気になる子の理解をしながら、保育者の配置の協力がお互いにできるようにしたい。
- 支援担当を適切に配置することで、支援を要する子の成長に繋がることを改めて感じた。

（3）毎日の「反省会」による保育の省察を行い、ヒヤリハット報告も行う。

- 反省会は教育部の参加が主で、保育部がなかなか参加できないことも多いため、今後の進め方を検討していきたい。
- ヒヤリハット報告は必ず行い、職員での共有化を図ることができた。報告内容によって、どのように対応することが大切かを考えることができた。今後の指導の方向性などを踏まえて報告することで、同じことが繰り返されないように報告の仕方を工夫した。

（4）園内研修のテーマは「環境構成」とし、個人研究（年1回）や1号認定園児長期休業中の研修会（年2回）の持ち方を検討し、計画的に進める。

- 年2回の研修の中で、それぞれのクラスの様子が事例の中から把握できたことで、各クラスの様子を共有することができた。
- 「環境構成」をテーマとすることで、子どもたちの遊びの設定や部屋の使い方などをPDCAサイクルで実践することができた。

（5）学校評価の項目を見直して実施し、結果を職員で共有し改善を図る。

- 学校評価の結果から、園長主任会を開き、対応を考えることができた。

2 教員の資質・能力向上について

達成度 B

建学の精神「報恩奉仕」の精神（感謝、社会奉仕）を持てるように反省会や研修会で演習（ワークショップ）を行い、職員が自分自身を振り返る機会を設けた。常識的でこども園にふさわしい身なり、姿勢、態度について考え、望ましいあり方について共有することができた。

園外研修、特にEESQ（第三者評価）の研修会に参加して、大きな刺激を受けて職員自身もこの活動をやってみたいと思う気持ちが強くなった。その活動を取り入れた活動を子どもたちと教職員で楽しく行うことができた。

（1）専修大学の建学の精神をもとに、感謝と社会に貢献する心を持つ職員を養成する。

建学の精神「報恩奉仕」の気持ち（感謝、社会奉仕）を持てるように演習を行い、職員が自分自身を振り返る機会を持った。子どもたちにも「ありがとう」と気持ちを表現できるよう手本を示している。

（2）知識や技能を有し、いろいろな引き出しがある教員を養成する。

- ・積極的に研修・公開講座などに参加し、園内研修にも生かして、質の高い保育を行うと意識が高まってきている。

（3）適材適所を見極め職務整理と組織作りに務め、職務に専念し効率的・迅速的に行う習慣をつける。

- ・職員の適材適所に合わせた配置を考え、組織づくりを行った。終業時間までに退勤できるよう仕事を進め、超過するときには副園長に申し出るようにし、効率的に、迅速に行うように努めた。

（4）本園事務部と専門学校事務部と学園事務局の連携の強化を図る。

- ・教員と事務が互いに連絡を取り合い、相談しながら進めている。

（5）園外研修の積極的参加

- ①年度当初までに年間研修計画を作成・実施し、キャリアアップ研修も参加する。
- ②公開保育研究会に参加する。
- ・こども園になったことで、職員が積極的にキャリアアップ研修に参加した。
- ・横川目こども園や西小学区内の黒沢尻保育園の公開保育に職員が参加して、他の園の保育を参観することができた。

（6）職員の自己評価の実施を行い、自己評価の結果によりPDCAサイクルで改善を図る。

- ・日々の保育や、職員自身、学年・学級などPDCAサイクルで改善を図ることができた。また、教育課程などもPDCAサイクルで改善できるよう検討している。

（7）学年のミーティング・職員会議による職員のチームワークを醸成する。さらに、職員間の連携強化を図り、互いに信頼し合える職場づくりを目指す。

- ・毎月学年会議の日を設け、話し合いをしている。また、日々の反省会や職員会議では、問題点や伝達事項を発表し合い、職員間で共有できるようにしている。参加できないときは、園日誌や職員会議録を確認することにしてきた。確認できていない職員への伝え方の工夫が必要である。

（8）人事評価により、職員の資質及び能力の向上を図るとともに園の教育力を高める。

- ・人事評価をすることで、各自がやる気を持ち保育に取り組むことができる。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 A

教育実習においては、本園の職員が指導教官としての意識を持って指導に当たるなど、系列校との連携強化を図ることができた。

運動教室を通して、園児たちが運動することの楽しさを味わうとともに、運動能力（特に調整力）向上に寄与していただき、講師の方々や高校生の皆さんに感謝したい。

（1）専門学校の実習指導は職員一人一人が指導教官としての意識を持ち学生指導にあたる。

- ・KTSの実習生や卒園児の教育実習など、指導教官としての意識を持ち、学生を育てるという思いで実習生に関わるようになってきた。

（2）高校・専門学校等との連携による各種教室の実施

①英語教室、サッカー教室、調理実習、お茶会等は対話を楽しみながら実施する。

②うんどう教室は、色々な動きを通して調整力を養う。

- ・系列校の協力を受け、楽しみながら各「教室」に参加することができた。
- ・運動教室、かがやきkids教室では楽しく教えてもらい、園児の運動の調整力育成の一助となった。

（3）小学校、保育園、老人施設（遊戯を披露）との交流事業を推進する。

- ・コロナ禍の中では、小学校との交流はできたが、保育園や老人施設では行うことができなかつた。

（4）地域の職場（消防署、北上駅、警察署、図書館、医療関係他）を訪問し、日頃の感謝を表す。

- ・園児は職場を訪問し、花籠を贈呈することにより、感謝の気持ちを表現することを学んだ。

（5）中学生の体験学習の受け入れ、高校生との交流事業を推進する。

- ・中学生・高校生の職場体験を通して、子ども理解や教育・保育の仕事の理解につながった。

（6）北上市復職プログラム研修の受け入れを行う。

- ・令和4年度は、北上市復職プログラム研修の参加者はいなかった。

（7）近隣の住民の方々とコミュニケーション図り、地域活性化の一助になる。

- ・年度当初や運動会練習前に近隣の方々へあいさつ回りをすることで、こども園に対する理解が得られるような取り組みを行った。

4 広報活動の強化について

達成度 B

こども園の良さを理解してもらうため、未就園児に対する園庭開放などに取り組んだ。また、子育て支援講演会を開催し、子育てに関する理解を深めることができた。ただ、参加人数が十分集まらず、開催日や周知の仕方に工夫が必要である。

（1）未就園児への園庭開放を行い育児や就園への相談に対応し、子育て支援の充実を図る。

- ・令和4年度は、未就園児が来園できる回数を大幅に増やすことができた。（園庭開放22回、未就園児教室6回、未就園児運動教室8回）回数を多くすることで、北上幼稚園の良さを感じてもらうきっかけとなった。育児や就園の相談に対応する、子育て支援の充実が図れるように5年度は進めていきたい。
- ・在園児の保護者には、子育て支援講演会を4回行った。平日の日中に開催したためと、

周知の仕方が足りなかつたためか講演の内容はとても良かったが、保護者が少人数しか集まらなかつたので、保護者が多く参加できるような講演会の開催の仕方を考えていく。

(2) ホームページでの情報発信とブログでの園生活の様子、行事等の紹介を積極的に行う。報道機関と連携しながら広報活動を行う。

- ・ホームページでの情報発信を行つたが、年間を通して回数が少なかつたので、来年度以降どのような発信をしていけばよいかを考え、本園の魅力を発信していきたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 A

月1回の安全点検を実施し、破損個所等については速やかに修理対応するなど、園内外の安全管理に努めた。

園児のバス乗降車の際に、保育者2名、運転士1名で人数確認をした。また、チェック表にその旨を書き、園長が確認をする。令和5年度中の早期にバス降車確認の防犯装置の設置を進める。

(1) 月一回安全点検を行い、園内外の安全を図る。

- ・園舎内外の点検後、修理・修繕等が必要な個所については、速やかに対応し、安全管理に努めた。
- ・園児のバス乗降車の際に、保育者2名、運転士1名で人数確認をした。また、チェック表にその旨を書き、園長が確認をする。送迎バスにおける事故を未然に防ぐため、降車確認を行う防犯装置を導入するなど、安全確保に万全を期していく。

(2) 非常災害時における安全な避難方法（引き渡し含む）を保護者にも周知し、行動できるように呼びかける。

- ・年齢に合わせた指導を重ね、園児が自分の身を守る力を身に付けられるように指導している。さらに、災害時に職員や保護者が園児を守る行動をとれるように引き渡し訓練等を行つた。

6 今後のこども園について

達成度 B

0歳児の受け入れ準備（運営計画、指導計画、給食、玩具、避難車等）を入念に行い、十分な受け入れ体制づくりに努めた。

園庭開放の際に、子育ての相談を1件受けたが、より開かれた園作りに努め、地域に根ざした園運営を行う。

(1) 令和5年度、0歳児の受け入れの準備を行い、運営計画を完成する。

- ・0歳児の受け入れ準備（運営計画、指導計画、給食、玩具、避難車等）をしっかりと行い、十分な受け入れ体制づくりに努めた。

(2) 子育て支援のビジョンを策定（一般型）し、地域に根ざした園づくりに努める。

(園庭開放等年40回)

- ・コロナ禍ではあったが、園庭開放や各種教室を40回開催し、子育て世代の方々に来園して相談を受けた。相談者は1名だけだったが、今後は、さらに、多くの方に活用していただくように取り組みたい。

令和4年度学校評価アンケート結果（こども園）

在籍数200名 提出数186名 提出率93%

| | | | 1そう思う | 2おおむねそう思う | 3どちらかといえばそう思わない | 4そう思わない | 5無回答 |
|--------------|----|---|--------|-----------|-----------------|---------|------|
| 教育・保育方針について | 1 | 園は、教育・保育目標や運営方針を分かりやすく伝えている | 61.8% | 36.0% | 1.1% | 0.0% | 1.1% |
| | 2 | 園は、教育・保育目標や運営方針を子どもたちの育ちに活かしている | 60.8% | 36.0% | 0.5% | 0.5% | 2.2% |
| 教育・保育内容等について | 3 | 園は、子どもの発達段階や興味・関心に応じた保育を行っている | 73.1% | 24.2% | 0.0% | 0.5% | 2.2% |
| | 4 | 園は、外遊びやうんどう教室などを通して楽しく体力作りをしている | 76.9% | 22.1% | 0.5% | 0.0% | 0.5% |
| | 5 | 園は、園生活を通して、してはいけないことやルールを守る態度、ふわふわ・ちくちくことばをわかるように指導している | 71.0% | 25.2% | 1.1% | 0.5% | 2.2% |
| | 6 | 様々な行事は、子どもたちの様子や成長が分かり、保育の意義（学びや遊びの大切さなど）を知る機会となっている | 70.4% | 29.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 7 | 園は、園全体で子どもの保育に取り組んでいる | 75.8% | 22.6% | 0.5% | 0.0% | 1.1% |
| | 8 | 子どもは、園での生活を楽しみ喜んで通っている | 78.0% | 21.0% | 0.5% | 0.5% | 0.0% |
| | 9 | 保育者は一人一人の子どもを理解し、個性に応じた援助をしようと努めている | 69.9% | 28.0% | 0.5% | 0.5% | 1.1% |
| | 10 | 保育者は、すすんであいさつを心がけ、子どもに温かい言葉遣いで接している | 78.5% | 21.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 11 | 保育者は、子どもの目線に立って分かるように話し、子どもの意欲や自信を育てるように声かけや支援に努めている | 75.3% | 23.1% | 0.5% | 0.0% | 1.1% |
| | 12 | 園での子どもの様子は、行事、参観日、園・学年だよりなどを通して知ることができる | 60.2% | 33.9% | 4.8% | 1.1% | 0.0% |
| 保護者との連携について | 13 | 園は、保護者の要望などに対して適切に対応している | 60.8% | 36.0% | 1.6% | 0.5% | 1.1% |
| | 14 | 園は、子どもの様子や連絡事項、怪我や病気等への対応を適切に行っている | 69.4% | 25.3% | 3.7% | 0.5% | 1.1% |
| | 15 | 園は、子どもの安全で心地よく過ごすための配慮（園内や園庭の安全点検・事故防止・避難訓練等）をし、危機管理や安全対策に努めている | 76.9% | 21.0% | 1.6% | 0.0% | 0.5% |
| 安全・環境について | 16 | 園は、施設設備（保育室・園庭等）や教育環境の充実に努めている | 78.0% | 20.9% | 0.0% | 0.0% | 1.1% |
| | 17 | 園は、清掃や整理整頓が行き届いている | 83.9% | 16.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 18 | 園は、個人情報の取り扱いに十分注意している | 79.6% | 17.7% | 1.6% | 0.0% | 1.1% |
| | 19 | 保護者は、園の教育・保育方針や運営方針に関心を持っている | 53.8% | 45.2% | 0.5% | 0.5% | 0.0% |
| 保護者について | 20 | 家庭では、早寝、早起き、朝ごはんなど基本的生活習慣に取り組んでいる | 55.3% | 42.5% | 2.2% | 0.0% | 0.0% |
| | 21 | 家庭では、おはよう、ただいま、おやすみ、ありがとう等のあいさつを励行している | 80.6% | 19.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 22 | 家庭では、ふわふわ・ちくちくことばの理解をして、言葉に気をつけている | 39.8% | 54.8% | 5.4% | 0.0% | 0.0% |
| | 23 | 保護者は、園の行事など積極的に参加している | 71.6% | 26.3% | 1.6% | 0.0% | 0.5% |
| | 24 | 保護者は、子育てについて身近な人に相談している | - 24 - | 63.4% | 31.2% | 2.7% | 2.7% |
| | | | | | | | 0.0% |

認定こども園専修大学北上幼稚園

1. 年齢別

1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 年齢別在園児数

(令和4年5月1日現在)

| 年 齢 | 入園定員 | 男 子 | 女 子 | 計 |
|-----|------|-----|-----|-----|
| 1歳児 | 18 | 6 | 11 | 17 |
| 2歳児 | 18 | 10 | 9 | 19 |
| 3歳児 | 52 | 25 | 29 | 54 |
| 4歳児 | 52 | 23 | 31 | 54 |
| 5歳児 | 60 | 27 | 29 | 56 |
| 合 計 | 200 | 91 | 109 | 200 |

3. 入園志願状況

(令和5年3月31日現在)

| 年 齢 | 男 子 | 女 子 | 計 |
|-----|-----|-----|----|
| 0歳児 | 2 | 0 | 2 |
| 1歳児 | 5 | 10 | 15 |
| 2歳児 | 0 | 0 | 0 |
| 3歳児 | 10 | 25 | 35 |
| 4歳児 | 0 | 0 | 0 |
| 5歳児 | 1 | 0 | 1 |
| 合 計 | 18 | 35 | 53 |

令和4年度 決 算 の 概 要

「資金収支計算書」

(1) 収入の部

収入の部では、当年度収入合計が予算比8.0% 減の 2,966,023,759円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では予算比 259,228,241円減の 3,684,531,702円となっている。

学生生徒等納付金収入

予算額 486,820,000 円 決算額 491,361,470 円 差 異 4,541,470 円 増
納付金完納者数は高等学校 748名、専門学校 137名、こども園 200名。

手数料収入

予算額 11,620,000 円 決算額 12,774,200 円 差 異 1,154,200 円 増
志願者数は、高等学校 928名、専門学校 98名。

寄付金収入

予算額 17,400,000 円 決算額 22,166,295 円 差 異 4,766,295 円 増
主に高校校舎建替一体整備事業資金募金による。

補助金収入

予算額 797,160,000 円 決算額 814,631,661 円 差 異 17,471,661 円 増
補正予算後の内示による高等学校補助金等の増による。

付随事業・収益事業収入

予算額 42,640,000 円 決算額 46,809,528 円 差 異 4,169,528 円 増
こども園の一時預かり事業委託料等の増による。

受取利息・配当金収入

予算額 10,000 円 決算額 25,662 円 差 異 15,662 円 増
預金利息による。

雑収入

予算額 30,405,000 円 決算額 32,644,487 円 差 異 2,239,487 円 増
依頼退職者の(社) 岩手県私学振興会よりの退職交付金等による増。

前受金収入

予算額 50,160,000 円 決算額 52,564,000 円 差 異 2,404,000 円 増
令和5年度入学予定者の入学(園)一時金と学生寮の令和5年度分寮費です。

(2) 支出の部

支出の部では、翌年度繰越支払資金を除いた当年度支出合計が、予算比 32,502,179円 減の 2,418,637,821円となっている。

人件費支出

予算額 745,365,000 円 決算額 735,048,788 円 差 異 10,316,212 円 減
所定福利費の減。

教育管理経費支出

予算額 290,769,000 円 決算額 280,966,385 円 差 異 9,802,615 円 減
経費圧縮による減。

借入金等利息支出

予算額 3,389,000 円 決算額 4,300,158 円 差 異 911,158 円 増
高等学校校舎借入、こども園園舎借入に伴う支払利息による。

借入金等返済支出

予算額 53,151,000 円 決算額 53,151,000 円 差 異 0 円
高等学校校舎借入、こども園園舎借入に伴う返済による。

施設関係支出

予算額 1,310,100,000 円 決算額 1,310,142,000 円 差 異 8,000 円 減
高等学校校舎建替一体整備事業による。

設備関係支出

予算額 18,510,000 円 決算額 14,213,375 円 差 異 4,296,625 円 減
高等学校吹奏楽部楽器、教員用ノートパソコン等による。

資産運用支出

予算額 15,000,000 円 決算額 15,000,000 円 差 異 0 円
専門学校施設設備拡充引当特定預金、法人基金準備資産繰入支出による。

その他の支出

予算額 43,406,000 円 決算額 43,505,419 円 差 異 99,419 円 増

「事業活動収支計算書」

前記の資金収支計算書と共に通の科目があるので、事業活動収支特有のものについて説明。

1. 教育活動収支

収入の部では、予算比2.6%増の1,094,233,608円となり、支出の部は、予算比1.7% 減の1,166,986,742円となった。教育活動収支差額は、予算比39.3% 増の△72,753,134円となった。

(1) 事業活動収入の部

寄付金

予算額 6,010,000 円 決算額 6,341,456 円 差 異 331,456 円 増
施設設備寄付金及び施設設備の現物寄付を除いた特別寄付金による。

経常費等補助金

予算額 489,369,000 円 決算額 504,302,467 円 差 異 14,933,467 円 増
施設設備補助金以外の補助金となる。

付随事業収入

予算額 42,640,000 円 決算額 46,809,528 円 差 異 4,169,528 円 増
高等学校自動車整備実習工場の棚卸品等が含まれる。

(2) 事業活動支出の部

教育管理経費

予算額 441,395,000 円 決算額 431,937,954 円 差 異 9,457,046 円 減
減価償却額 151,702,073円が含まれる。

2. 教育活動外収支

収入の部では、予算比 156.6% 増の 25,662円となり、支出の部は、予算比 26.9% 増の 4,300,158円となった。

教育活動外収支差額は、予算比 26.5% 減の △4,274,496円となった。

経常収支差額では、予算比 37.7% 増の △76,859,830円となった。

3. 特別収支

収入の部では、予算比 2.4% 増の 326,724,067円となり、支出の部は、 413,442円となった。
特別収支差額は、予算比 2.3% 増の 326,310,625円となった。

(1) 事業活動収入の部

その他の特別収入

予算額 319,191,000 円 決算額 326,724,067 円 差 異 7,533,067 円 増
施設設備寄付金及び現物寄付及び施設整備補助金による。

(2) 事業活動支出の部

資産処分差額

予算額 305,000 円 決算額 413,442 円 差 異 108,442 円 増
耐用年数の経過した設備・施設処分差額による。

「貸借対照表」

貸借対照表は、令和5年3月31日現在の資産・負債・基本金等の状況を前年度末と対比して表示している。

この表は、資産の部・負債の部・純資産の部・負債及び純資産の部からなり、増減の△は減を示している。

資産の部

本年度末金額 5,824,181,172 円 前年度末金額 4,292,140,301 円 差 異 1,532,040,871 円 増
前年度末に対し 35.7%の増。

資産には固定資産と流動資産があり、

固定資産は

本年度末金額 4,186,187,879 円 前年度末金額 3,502,375,985 円 差 異 683,811,894 円 増
前年度末に対し 19.5%の増。

流動資産は

本年度末金額 1,637,993,293 円 前年度末金額 789,764,316 円 差 異 848,228,977 円 増
前年度末に対し 107.4%の増。

負債の部合計

本年度末金額 1,486,244,926 円 前年度末金額 203,487,050 円 差 異 1,282,757,876 円 増
前年度末に対し 630.4%の増。

固定負債は

本年度末金額 1,279,029,696 円 前年度末金額 90,684,872 円 差 異 1,188,344,824 円 増
前年度末に対し 1310.4%の増。

流動負債

本年度末金額 207,215,230 円 前年度末金額 112,802,178 円 差 異 94,413,052 円 増
前年度末に対し 83.7%の増。

純資産の部合計

本年度末金額 4,337,936,246 円 前年度末金額 4,088,653,251 円 差 異 249,282,995 円 増
前年度末に対し 6.1%の増。

基本金

本年度末金額 5,463,494,082 円 前年度末金額 4,943,606,978 円 差 異 519,887,104 円 増
前年度末に対し 10.5%の増。

繰越収支差額

本年度末金額 △1,125,557,836 円 前年度末金額 △854,953,727 円 差 異 △270,604,109 円 減
前年度末に対し 31.7%の減。

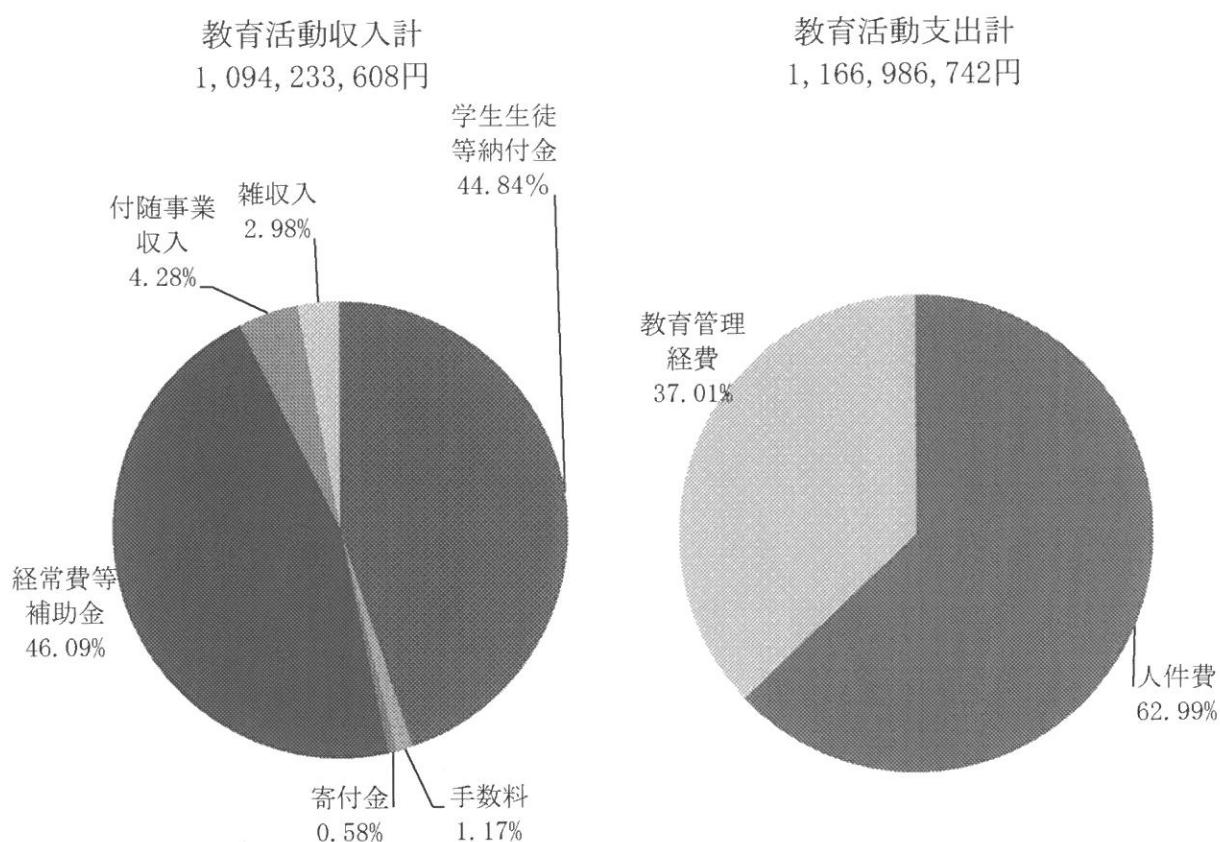
負債及び純資産の部合計

本年度末金額 5,824,181,172 円 前年度末金額 4,292,140,301 円 差 異 1,532,040,871 円 増
前年度末に対し 35.7%の増。

以上

(表1)

令和4年度 事業活動収支科目別構成グラフ



(表2)

主 要 財 務 比 率

| 比 率 | 算 式 (× 100) | 令和2年度 (決 算) | 令和3年度 (決 算) | 令和4年度 (決 算) |
|---------------------|--|---------------------|---------------------|----------------|
| 人 件 費 比 率 | $\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$ | 70.50% (64.3%) | 68.31% (64.2%) | 67.17% |
| 人 件 費 依 存 率 | $\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$ | 135.28% (120.6%) | 152.40% (120.9%) | 145.59% |
| 教 育 管 理 経 費 比 率 | $\frac{\text{教 育 管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$ | 40.10% (27.7%) | 42.26% (28.4%) | 39.47% |
| 事 業 活 動 収 支 差 額 比 率 | $\frac{\text{基 本 金 組 入 前当 年 度 収 支 差 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$ | 20.33% (3.6%) | -2.26% (-2.1%) | 17.55% |

※ 経常収入は、教育活動収入計と教育活動外収入の合計

※ () 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による高等学校部門平均値を示す。